

## 第6回 市民講座

### 『戦前の高校における修学旅行史』

鈴木愛広氏（蕪高教員）



「蕪高の修学旅行って京都・奈良だよ」…高校時代、そして卒業後も当たり前と思ってきた行き先（近年はさすがに広域に）。それは修学旅行史の上では「点」だった。

今回、市民講座で「高校修学旅行の歴史」を拝聴し、改めて明治以来の「線」上に位置付けることができた。まさに、たかが修学旅行？ されど修学旅行だ。

文部省の管轄下、「行軍」としての修学旅行の開始（1日28kmを10日間歩く?!）、観光旅行としての修学旅行への移行（九州の実業高校は明治期から海外へ?!）、費用や時局による宿泊の制限（女子はそれ以前から宿泊禁止?!）などなど、修学旅行は日本の近代化～戦争の歴史と不可分の関係にあった。

旧制蕪山中学の修学旅行も例外でなく、明治初期は伊豆一周（各地で村長らの出迎えを受けたとか）、大正期に京都～奈良～伊勢と方面がほぼ固定、昭和戦前期の修学旅行禁止時代の工場見学遠足などと推移する。そのような中、各時代の先輩は修学旅行の様子・感想を記録（現在の「松籟」）に残している（宿で騒ぐのは100年前の先輩も同じ?!）。

現代の修学旅行や遠足にも目指す研修上の視点があり、生徒はしっかり受け止めて自分のものになっている。自分の時はどうだったかなあなどと振り返りつつ、今後も修学旅行が果たす役割に期待したい。

この興味深いテーマを掘り下げた講師の先生には頭が下がります。各年代・各学年の遠足・修学旅行の行き先・人数・日数をまとめられた一覧等の資料は、超貴重なものではないだろうか。

本日7月23日（土）は、大暑の日でもあり、外出は命の危機といわれる猛暑の中、通常より参加人数が伸びなかったのは残念でした。大変面白かったです。

大川鈴代（高30）

\*24 ページにわたる素晴らしい資料は、同窓会事務局にあります。